

俳句

## 大津俳句会

縄文の森より椎の実を拾ふ

井芹眞一郎

亡き友の家への道や草茂る

秋山 恵

凌霄花散り敷く道を染むるほど

大塚喜久子

出がけにもまた草取りをしてをりぬ

佐賀 久子

山路来て両手で掬ふ岩清水

岡崎 浩子

梅雨明けの空の青さを眩しめり

佐澤 俊子

大海を見たしみたしと蚯蚓鳴く

中林 好子

俳句

## つのはな句会

この居場所お借りしてます地球の夏

田上 公代

風を切る朝のジヨギング新樹光

木庭 杏子

本棚の二段目あたり炎暑来る

上杉 波

石棺に西日 卑弥呼の謎火照る

矢嶋 道子

蝶遊ばせてだんまり静かなジャガの花

水野 春子

アカンサス濃く咲き昇級試験

梅木トキエ

トランプットの少年が消えた夏の海

塚本 洋子

姫女苑のまつすぐ立てる葬の昼

柴田しのぶ

荒梅雨や遠くにひそむビルの群れ

村田 健二

原風景沈めダム建つ青山河

志賀 孝子

短歌

## 大津短歌会

湯煙を透して見ゆる藪椿ほどほと赤しその夜の色

坂本 杲子

昼下り湯島のねこの映像に近寄りたしと猫の纏まとわる

鞍 岳志

忘れてる忘れてないと独りごと呆れ果ており言葉はあらぬ

管野 静

雨ごとに盆栽藤の花延びて色増す房のかんざしに似る

豊岡ミツル

生き甲斐を見付けに野良着着るとう母の遺稿はセピア色なす

吉永 恵子

足下の蟻は大きな餌はこび どことも知れぬ道筋を行く

小平 善行